

授業の形態
講義
教科書・参考文献
授業全体の特定のテキストはありません。参考文献については、授業の中で紹介します。 (なお、参考までに自著を挙げておきます。川崎賢一、「トランス・フォーマティブ・カルチャー」、勁草書房、2006年)
評価方法・評価割合
期末試験=80%,出席=20%
主題と目標
<p>テーマ:グローバルメディアに関し、その確立の歴史の概略</p> <p>グローバル化が進行する中で、グローバルなメディア産業・企業、それらの文化などについて、ローカル・ナショナル・インターナショナル・トランスナショナル・グローバルなレベルにおいて、概略を学習する。</p>
授業計画
<p>講義の内容は、大きく分けて、グローバルなメディアが成立するまでの、起源、発展のプロセス、文化産業論の展開、第二次大戦後以降の発展の概略、マスコミ産業からグローバルメディアへ、IT産業とグローバルメディア、グローバルメディア体制:その問題点と可能性、などについて具体的事例を挙げながら、学習する。</p> <p style="text-align: center;">〈スケジュール〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 近代社会とポスト近代社会 3. 情報社会・情報革命(Information Revolution)について(その1) 4. 情報社会・情報革命(Information Revolution)について(その2) 5. 情報社会・情報革命(Information Revolution)について(その3) 6. 文化政策から見た文化システムのグローバルな発展 7. ポピュラー文化とメディアの発達 8. 文化産業と創造産業の登場と展開 9. 近代国家システムと文化交流の展開 10. 世界都市とグローバルシティに関する歴史的展開と現代的意義 11. 情報革命と近代ジャーナリズムのトランスフォーメーション(その1) 12. 情報革命と近代ジャーナリズムのトランスフォーメーション(その2) 13. インターネットと社会的トランスフォーメーション 14. 携帯電話とコミュニケーション革命、まとめ:地球的文化システム 15. 期末試験(小論文を予定)
学生へのメッセージ
<p>この講義では、主に、文化社会学的な観点から、概略を分析します。ただし、今までのキャリアを生かし、国際関係論・文化経済学・情報通信学などの研究成果を入れ込んだ、学際的な内容にするつもりです。また、文化的グローバル化そのものに関心のある学生にもぜひ聞いていただきたい。</p>

川崎賢一、「グローバルメディア論」、後期